



ホーム [法人の紹介](#) [組織・事業](#) [ご入会・ご支援](#) [出版物案内](#) [活動報告\(セミナー\)](#) [活動報告\(イベント\)](#) [ヘリテイジファン](#) [まちづくり相談室](#)
[野毛都橋商店街ビル](#) [シルクロードネットワーク](#) [ヨコハマヘリテイジスタイル\(会報\)](#) [更新履歴](#)

ニュース（お知らせ）

・日々の暮らしと横浜の歴史資産を一步近づける ヨコハマヘリテイジ スタイル（会報）最新号 [2021夏号](#) [\(PDF\)](#) [NEW](#)

・鉄道開業150周年記念事業委員会の開催

明治5（1872）年10月、新橋-横浜に我が国初の鉄道が開業してから、2022年で150周年を迎えるにあたり、公益社団法人横浜歴史資産調査会は、表記の委員会を設け12月24日に第一回委員会を開催いたしました。委員会構成と議題は下記の通りです。
 特に汽車道界隈にSLの記念運転または、展示を予定しています。SLは、圧縮空気を用いて復活している車両を対象にしています。
 夢あふれる事業展開を行いたく存じますので引き続き、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。
 なお、事業は日本鉄道保存協会並びに全国近代化遺産活用連絡協議会と連携しておこなう予定です。

鉄道開業150周年記念事業委員会名簿

委員	菅 建彦（公益財団法人交通協会顧問）
	岡田 直（横浜都市発展記念館 主任調査研究員）
	北村圭一（元 横浜市港湾局技術担当部長）
	齋藤大起（神奈川新聞文化部記者）
	二階堂行宣（法政大学准教授）
	堀 勇良（公益社団法人横浜歴史資産調査会 理事）
オブザーバー	北河大次郎（文化庁建造物第二課文化財調査官）
事務局	米山淳一（公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事）
	河合桃子（同 事業課）
	田中光一（同 事業課）



会場の横浜メディアセンター会議室



菅 建彦氏



岡田 直氏



北村圭一氏



齋藤大起氏



二階堂行宣氏



北河大次郎氏



事務局の二人

・シルク通信 No.1を発行しました [\(PDF\)](#)（シルクロードネットワーク）

・神戸の歴史的建造物の保全活動に対するお願い（シルクロードネットワーク）

「シルクロードネットワーク協議会」の関係で、神戸市から下記の依頼がありました。ご支援・ご協力をお願いいたします。
 神戸市では2020年12月31日（木）までガバメントクラウドファンディング（ふるさと納税を利用して行うクラウドファンディング）による神戸の歴史的建造物（神戸歴史遺産）の保全活動に対する寄附を募っております。
 今回は、若王子神社（国指定重要文化財）、住吉神社（市指定重要文化財）、農村歌舞伎舞台（北僧尾・上谷上、どちらも県指定重要文化財）及び神戸歴史遺産全体への寄附を募集するものです。
 若王子神社または住吉神社への1万円以上の寄附で、ご希望の方には銘板にお名前を記載します。また、神戸市在住以外の方には、返礼品のご用意があります。
 体験型の返礼品「若王子無動寺・国重要文化財の仏像特別拝観」、「若王山無動寺・伝統行事の特別見学」、「上谷上農村歌舞伎舞台の奈落 特別見学」をはじめ神戸牛・ワインなどの神戸地場産の返礼品をお選びいただけます。
 ※ふるさと納税は、控除上限内の2,000円を超える部分について、手続きをすると税金が控除されます。
 詳しくは、ふるさとチョイスのページをご覧ください。 <https://www.furusato-tax.jp/gcf/1084>
 お忙しいところ恐れ入りますが、ご協力・ご検討よろしくお願い申し上げます。



・前橋東照宮拝殿取り壊し中止を求める署名（RACからお知らせ）

前橋東照宮拝殿取り壊しの工事が進められようとしています。

私たちは「前橋東照宮の拝殿除却工事中止を求める連絡会（会長：松平大和守家 17代当主松平直泰）」を設立、記者会見、署名活動等を通じて東照宮宮司瀧尾茂氏に神前結婚式場建設のための拝殿除却工事中止を求めています。私たちに世論に訴える方法しかありません。是非、署名活動にご協力下さい。

周辺工事は進行しております。ここに至る概要については添付の署名活動の趣意書と新聞記事を参照下さい。但し、新聞記事の中にある宮司側が提案している移転工事は移転先等、何ら根拠のあるものではありません。

先月14日に宮司側の説明会がありました。説明を聞いておると、今回の事業はどう見ても宮司の独断によるものであると、つまり、氏子、崇敬者、地域住民等の総意でないことは明らかです。神社は個人の意思でどうにでもなる民間企業ではありません。

工事は、「創建400年、令和の大改修」という名目で、現拝殿を撤去し、神前結婚式場（拝殿）と本殿の覆い屋を兼ねた100坪ほどの建屋を建設する計画です。設計された建物が拝殿が過去に160年の歴史に勝る物なのでしょうか。拝殿に代わりうる文化財となるのでしょうか。

工事費は2億5千万円で、ぐんまみらい信用組合からの借り入れで賄うようです。昨今の世情を考えると結婚式場で借金を返済できるか心配です。抵抗にとられている神社の行く末が心配です。

宮司側は、拝殿を解体する論拠として、群馬県文化財審議員の一人と前橋市文化財保護課担当者が解体調査記録を残せば解体しても良いと言った事を取り上げています。たとえ文化財の専門家といえども、地域の文化財に対していかなる理由があるにしても壊して良いとは言えないはずですが、また、文化財審議員の方は、前橋市がこれから取り組もうとしている「歴史まちづくり法」適用のための法定協議会の委員でもあります。さらに、東照宮は「歴まち法」に規定された「歴史的風致維持向上計画」策定に際し、隣接した重文臨江閣とともに重要な歴史的資源として前橋市は取り上げています。今、やっと一歩踏み出そうとする時に鼻をくじく行為です。市は宮司に対して積極的に働きかけることも無く、また、私たちの活動には冷やかたしか思えません。

RACは、9月に前橋市で研究会を国の関係者、各地の識者をお招きして開催しました。目的は「歴まち法」を適用して「歴史文化のかおるまちづくり」の一歩を踏み出すきっかけづくりをするためでした。腰の重い前橋市が動き出した矢先です。今の状況を見ますとなんのための研究会開催か判りません。もし、拝殿が無くなるような状況となれば、前橋市の活動は中止せざるを得ません。

是非とも地域の歴史文化を踏みにじる工事を阻止するために皆様のお力をお貸し下さい。宜しくお願い致します。 [前橋東照宮ホームページ](#)

申し訳ありませんが、別紙署名用紙に氏名・住所をご記入いただき、下記事務所まで郵送、あるいはご持参頂けないでしょうか。宜しくお願い致します。

[前橋東照宮を守るための趣意書\(PDF\)](#)

[前橋東照宮署名簿\(PDF\)](#)

特定非営利活動法人 街・建築・文化再生集団（RAC） 中村 武
〒371-0035 前橋市岩神町2-7-5
TEL 027-210-2066 FAX 027-235-0643
e-mail act@npo-rac.org
URL <http://www.npo-rac.org>



・歴史を生かしたまちづくりセミナー「旧横浜市庁舎の歴史・文化的価値を探る！」を開催

日 時：2020年12月5日（土）午後2時～4時30分

場 所：横浜役所1階 市民協働推進センタースペース A・B

講 演1「旧横浜市庁舎の設計者・村野藤吾が求めたもの」松隈 洋（京都工芸繊維大学教授）

講 演2「旧横浜市庁舎の建築概要」吉田鋼市（横浜国立大学名誉教授・公益社団法人横浜歴史資産調査会副会長）

話題提供 内田青蔵（神奈川大学教授・公益社団法人横浜歴史資産調査会社員）

トークセッション

松隈 洋、吉田鋼市、内田青蔵（コーディネーター）

主 催 公益社団法人横浜歴史資産調査会、横浜市、公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会（JIA神奈川）

当日はコロナ対策を施し、会場だけではなくリモートで配信する方法で行いました。松隈先生は京都からリモート参加、吉田先生と内田先生は会場参加の二重構造のセミナーとなりました。一般の参加者は、会場の関係から40名に制限させていただきました。

松隈先生からは、村野藤吾が手掛けた各地の作品の紹介を通じて旧横浜市庁舎の設計コンセプトや文化論を語ってくださいました。吉田先生からは、旧横浜市庁舎の建物全体やディテールに秘められた意匠の魅力などからその存在価値を読み取ることの大切さをご披露いただきました。また、内田先生からは民主主義と市庁舎との視点から、市民に開かれた空間が生きている旧横浜市庁舎の素晴らしさをご教示いただきました。

私たちが愛してやまない旧横浜市庁舎の将来に互る保存、活用に関して参加者一同、大いに参考になったシンポジウムでした。会の記録は、大切な資料として報告書にまとめて参ります。





・ヨコハマヘリティジ・セミナー2020～旧モーガン邸の新たな船出～を開催しました

日 時 2020年11月28日(土) 13:30～15:30

場 所 藤沢商工会館ミナパーク3階会議室 (藤沢市藤沢607-1 藤沢駅から徒歩3分)

内 容 趣旨説明
旧モーガン邸再建計画調査報告について
旧モーガン邸を守る会のこれまでとこれから
シンポジウム『モーガン邸再建に向けて皆でエールを送ろう』
コーディネーター：菅孝能氏
パネリスト：渡辺剛治氏
鈴木美都子氏
栗林恵美氏
廣田邦夫氏
総 括：後藤 治氏

2004年に2度の不審火により焼損した旧モーガン邸を、現在の所有者に代わって当公益社団が再建に取り組むスタートイベントとして11月28日(土)にシンポジウムを開催しました。(次第、配布資料は別添参照)

当日は、感染症対策のため定員を半分制限し、約60名の参加となりました。

趣旨説明から調査報告、シンポジウムへと順調に進み、「みんなで力を合わせて再建を」とのエールをいただき、お開きとなりました。

今後、再建に向けて藤沢市、旧モーガン邸を守る会と連携し、関連の事業や募金活動等を展開して参ります。

皆様におかれましても引き続き格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。





チラシ表



チラシ裏



プログラム



登壇者プロフィール



当日配られた資料
小田原部図交館 清閑亭



当日配られた資料
ひらつか八幡山の洋館



当日配られた資料
保野別邸庭園



当日配られた資料
藤沢の歴史的建造物活用 事例集

・横浜絹遺産の視察と情報交換（シルクロードネットワーク）

日本の着物を愛するイギリス人シーラ・クリフさんと、NPO川越きもの散歩の藤井美登里さんが、去る10月11日（日）に三溪園や開港記念館他の横浜絹遺産の視察にお越しになりました。

着物姿のお二人が横浜の街を颯爽と歩くお姿は華やかで、道ゆく皆様の目には新鮮な都市景観として映ったことでしょう。横浜シルクが欧州を席捲した時代もありました。正にシルクが結び国際文化交流に乾杯です。



前橋市にある
研業社・開根製糸所跡地
今は公園になっている



前橋市の風呂川のほとりにある
日本最初の器械製糸工場
であった藩営前橋製糸所跡



国指定重要文化財
近代和風の木造建築
前橋市の臨江閣にて



横浜赤レンガ倉庫にて



視察を終えたひとときを過ごす
シーラさん、米山、藤井さん

・シルクロードネットワーク協議会2020年神戸大会、中止・延期のお知らせ 詳しくは[こちら](#)

・野毛都橋商店街ビル（横浜市登録歴史的建造物）に解説板を設置

公益社団法人横浜歴史資産調査会（ヨコハマヘリテイジ）では、所有資産第1号となる野毛都橋商店街ビルに、建物の歴史と文化を紹介する解説板を令和元年度事業で新たに製作し、このたび同ビル中央階段付近に設置いたしました。

解説板のデザインは兼広彰氏（㈱ユー・エス・シー代表、よこはま洋館付き住宅を考える会事務局）写真は田中光一（当ヘリテイジ広報担当）解説文は米山淳一（当ヘリテイジ常務理事）が担当しました。野毛都橋商店街ビルへお越しの際にご覧いただければ嬉しく存じます。

ちなみに当ヘリテイジ独自の解説板の製作、設置は、開通合名会社（日本人の商社）の煉瓦遺構（明治15年・中区北仲通）に続き2例目です。



解説版を取り付けるのは
中央付近の階段入り口



下部にはシンボルマークが
レーザー加工で刻まれています



取り付け作業は表面の強化ガラスを
傷つけないよう二人で慎重に



完成品です



文：米山淳一

・コンサート in ヘリテイジ ピアノが案内する横浜の歴史とまち Vol. 8

日時 2020年1月29日（水）18:30~20:00

場所 横浜市イギリス館（横浜市中区山手町115-3）

出演 ピアノ演奏 後藤 泉

解説 長谷川正英（横浜市環境創造局）

司会 米山淳一（公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事）

詳しくは[こちら](#) (PDF)



港の見える丘公園から見た
横浜市イギリス館



開演前の夕闇が迫る
正面玄関入り口



演奏前の挨拶をする
長谷川正英氏と米山淳一事務局長



演奏を始める
後藤泉さん



昔はダイニングだった
1階のホール



演奏の合間には長谷川氏と
後藤さんによる解説が



後半はムソルグスキー
作曲による「展覧会の絵」



演奏が終わっての挨拶
をする後藤泉さん



演奏の緊張から一転し
笑顔が



株式会社三陽物産（モンテローザ）
から洋菓子のお土産も

ヨコハマヘリテイジの新しい団体案内が出来ました。活動の様子や事業を取りまとめております。
会員となって共に歴史を生かしたまちづくりに取り組みませんか。



リーフレット表



リーフレット裏

公益社団法人 横浜歴史資産調査会（ヨコハマヘリテイジ）とは

歴史的建造物は、都市に歴史や文化の奥行きを与え、そこにしかない魅力や個性をつくり出します。
YOKOHAMA HERITAGEは、市民の皆さん、行政、専門家など、様々な立場の方と連携し、「歴史を生かしたまちづくり」に取り組んでいます。

会員募集

ヨコハマヘリテイジでは、ヨコハマヘリテイジサポートクラブ会員を募集しています。
詳しくは、[こちら](#)をご覧ください。
現在会員の方の更新については、ご案内を郵送しておりますのでご覧ください。

[大きな地図で見る](#)

公益社団法人 横浜歴史資産調査会（YOKOHAMA HERITAGE）
〒231-0012 横浜市中区相生町3丁目6-1 泰生ビル405号室
tel/Fax 045-651-1730
Eメール yh-info@yokohama-heritage.or.jp

Copyright (C) YOKOHAMA HERITAGE. All Rights Reserved.

会長挨拶

歴史的建造物は、誰もが楽しめるまちの資産です。

私たちは、「歴史的な資産を大切に、活用することによってまちの魅力を創っていく」という趣旨に賛同する専門家で会をつくり、活動を行っています。

歴史的建造物の保全活用には、専門家や所有者だけでなく、市民の皆様のご理解、ご支援が欠かせません。ぜひ、新しいYOKOHAMA HERITAGE ヨコハマヘリテイジを応援していただければ幸いです。

公益社団法人 横浜歴史資産調査会 会長 宮村 忠



設立趣旨

公益社団法人 横浜歴史資産調査会（通称YOKOHAMA HERITAGE ヨコハマヘリテイジ）は、歴史的建造物等の保全活用を推進するために設立された民間団体です。1988（昭和63）年に「横浜市歴史的資産調査会」として発足し、以来25年以上にわたり、横浜市と連携して「歴史を生かしたまちづくり」を推進して参りました。

2009（平成21）年6月2日、横浜開港150周年を迎える年の開港記念日に一般社団法人として新たなスタートを切り、2013（平成25）年4月には内閣府認定の公益社団法人となりました。これまでの蓄積を生かし、歴史的資産の保全活用に関する調査研究、セミナーや見学会等の普及啓発を中心に活動することとともに、公益社団法人（免税団体）として歴史的資産の保存、取得、管理等に向けて活動して参ります。

法人概要

法人名称	公益社団法人 横浜歴史資産調査会（通称 YOKOHAMA HERITAGE ヨコハマヘリテイジ）
所在地	〒231-0012 横浜市中区相生町3丁目6-1 泰生ビル405号室
設立目的	「歴史を生かしたまちづくり」の推進に資することを目的とする。
事業内容	1. 歴史的資産（神社・寺院、古民家、近代建築、西洋館、近代和風建築、土木産業遺構、歴史的地区）の保全と活用に関する調査研究 2. 調査研究によって得た成果の普及啓発 3. 歴史的建造物の修理・改修等を担当する人材の育成及び支援 4. 歴史的建造物所有者からの相談に対する対応 5. 行政及び関連団体との連携事業 6. その他設立目的遂行に必要な事業
設立年月日	2009年6月2日
代表理事（会長）	宮村 忠

定款

[公益社団法人横浜歴史資産調査会 定款](#)（PDF）

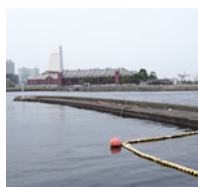
ロゴについて

開港のシンボル「象の鼻」をモチーフとしています。

象の鼻地区は大きな橋の根もと、横浜開港にあたって最初に波止場が設けられた場所で、当会が早くから歴史的資産として注目し、保存と活用を手がけてきた遺構でもあります。

100年前、横浜開港50周年の記念として建設されたのは「ジャックの塔」として知られる横浜開港記念会館。開港100周年にはマリントワー。そして開港150周年の今年は、このみなと横浜の発祥の地が整備されて「象の鼻パーク」としてオープンし、当会もこの記念すべき年に一般社団法人として再出発することになりました。

象の鼻の波止場が多く船を迎え入れたように、これからも開かれた団体として様々な分野と連携し、皆様のご支援とご協力のもと、歴史資産の保存活用に取り組んでいきたいという思いを込めています。



整備前の象の鼻



整備後の象の鼻

「象の鼻」地区については[こちら\(横浜市港湾局ホームページ\)](#)をご覧ください。

令和 2 年 度 事 業 報 告

公益社団法人 横浜歴史資産調査会

令和 2 年度事業の概要

「歴史を生かしたまちづくり」に大切な歴史的資産を都市計画の視点から戦略的に調査・保全・活用を開始してから 32 年を経過した。

令和 2 年度も歴史的建造物や近代化遺産等の歴史的資産を生かした魅力溢れるまちづくりに向けて歴史的資産の調査研究をはじめ、保全・活用を目指した保護事業も積極的に実施した。

さらに「歴史を生かしたまちづくり」を推進するために、広く市民や専門家を対象にセミナーや講演、シンポジウム等を開催した。

併せて、「歴史を生かしたまちづくり」を円滑に行うための普及啓発、人材育成事業を行った。

令和 2 年度において実施した具体的な事業は次のとおりである。

注) 氏名については敬称略。

所属・役職等については、事業実施時点のもの。

1. 歴史を生かしたまちづくり推進事業（公益目的事業）

（1）歴史的建造物保全・活用計画関連調査等

（ア）歴史的建造物保全・活用関連調査

歴史的建造物や近代化遺産等の歴史的資産を保全・活用するため調査を実施した。調査は現地での歴史的資産の現状把握及び所有者へのヒアリング、文献調査、所見作成等である。調査結果は、当公益団体の公益目的事業である「歴史を生かしたまちづくり推進事業」に活用するとともに、横浜市認定並びに登録歴史的建造物等への具体的な保全・活用をするために役立てることとした。

<自主調査>

① 旧湘南電鉄（京浜急行）瀬戸変電所の構造調査等及び同変電所保存活用委員会の設置等（金沢区）

a. 保存活用委員会の設置等

旧湘南電鉄瀬戸変電所の保存活用を推進することを目的に令和元年度に保存活用委員会を設置し、令和2年度は、新たに委員を追加した。委員会は未開催であったが、京急電鉄、横浜市都市デザイン室等との調整会議や、後藤治委員長から助言を元にワーキング会議を適宜行った

保存活用委員会構成メンバー

委員長 後藤 治（工学院大学理事長）
委員 西澤 英和（関西大学教授）
田村 雅紀（工学院大学教授）
小野田 滋（公益財団法人鉄道総合研究所情報管理部担当部長）
山本 博士（公益社団法人神奈川台場地域活性化推進協議会理事長）
大野 道夫（京急電鉄（株）鉄道本部工務部施設担当課長）
梶山 祐実（横浜市都市デザイン室長）
吉田 鋼市（当公益団体副会長・横浜国立大学名誉教授）

オブザーバー

原 幸一（京急電鉄（株）鉄道本部工務部課長補佐）
三浦 拓也（同 主任）

事務局

米山 淳一（当公益団体常務理事）
菅井 稔（当公益団体 旧瀬戸変電所保存活用プロジェクト主任研究員）
亀井 泰治（当公益団体研究員）※横須賀市職員による協力

b. 調査等

当公益団体が将来、京浜急行電鉄より寄贈を受け保存・活用計画を実施するに当たり、平成29年度は建屋のコンクリート等の耐震診断調査及び現況把握調査を、平成30年度は地盤並びに建物の振動性等の調査を実施し、令和元年度は保存活用に向けた調査及び所見作

成及びレーザーを用い建屋の鉄骨や鉄筋調査を行い、建屋は、鉄筋や鉄骨を併用した強固な構造で建設されていることが判明した。

令和2年度は、建物の具体的な構造補強や屋根、窓周りを中心とした外板の修理計画と、これに関する経費算出のための専門家による調査等を行った。

調査日：1回目 令和2年7月16日(木)

2回目 令和3年2月24日(水)

調査者：株式会社長坂設計工舎 長坂健太郎、上村一貴

調査指導：後藤 治(保存活用委員会委員長・工学院大学理事長)他

② 旧倉石忠雄家住宅現況把握調査等（長野県千曲市）

長野県北信地区の生糸や絹織物集散地として横浜と歴史文化的関係の深い千曲市稲荷山地区（国重要伝統的建造物群保存地区）にある旧倉石忠雄家住宅（元衆議院議員・労働大臣、農水大臣を歴任）の国重要文化財指定に向けての現況把握調査を平成30年度から継続で千曲市歴史文化財センターの調査費で実施しており、令和2年度は、倉石家の土蔵内の文献調査等を、所有者の倉石久寿氏とともに行った。併せて、千曲市文化財センター矢島宏雄氏と現地調査を行った。

調査日：令和2年11月9日(月)

調査者：後藤 治(工学院大学理事長)、吉澤正己(建築史家)

矢島宏雄(千曲市歴史文化財センター所長)他

担当：米山淳一(当公益社団常務理事)、河合桃子(当公益社団事業課)

③ 旧モーガン邸再建にむけた調整等（藤沢市大鋸）

不審火で焼失した旧モーガン邸の再建を目指し、平成29年度に当公益社団で実施した復元再生計画調査の結果を踏まえ、再生に向けた調整会議を「NPO法人旧モーガン邸を守る会」と行った。

また、所有者である藤沢市にこれまでの取り組みを随時報告するとともに、一方の所有者である公益財団法人日本ナショナルトラスト(JNT)とは所有地と火災保険金の一部の移譲に関する調整を行った。特にJNTとは、同財団が所有する土地等について、当公益社団への譲渡に関する調整を令和元年度からの継続で行った。

なお、同財団との調整等は、当公益社団の顧問法律事務所所属の弁護士・司法書士の指導で行った。

指導者：松本武之弁護士、尾谷恒治弁護士、谷口貴則司法書士
(共に早稲田リーガルコモンズ法律事務所)

④ 細野燕台家茶室の現況調査（鎌倉市）

篆刻や古陶磁等を通じて北大路魯山人親交の深かった細野燕台氏は、魯山人の招きもあり、大正期に石川県の金沢から北鎌倉の明月院の門前に居を移した。細野氏はこれを機に北鎌倉で茶の湯文化を広め、政財界人や文化人がこぞって茶室を起こしている。その拠点

になったのが細野家に現存する 2 棟の茶室である。

当公益社团は鎌倉市と協働で、この 2 棟の茶室の将来の保存に向けて所有者の意向調査を行い、明月院や周辺の歴史的風致と一体となった茶室を、景観重要建築物として位置づけ、保存を推進することになった。

調査日：令和 3 年 3 月 24 日(水)

調査者：奥山信治（鎌倉市都市景観課長）、平井早帆（鎌倉市都市景観課）、吉田鋼市（当公益社团副会長・横浜国立大学名誉教授）

担当：米山淳一（当公益社团常務理事）、河合桃子（当公益社团事業課）

＜受託調査＞ 歴史的建造物の保全計画案等の検討 [横浜市受託事業]

① 歴史的建造物の概況調査等

「歴史を生かしたまちづくり」において保全等が必要なものについて、専門家による現地調査、活用や修理等の助言・相談を得た。

a. フェリス女学館 6 号館別館(中区)

庇の新規設置にあたっての仕様や技術的助言

調査者：関和明(当公益社团理事・関東学院大学名誉教授)

b. 岩田健夫邸(中区)

・認定当初、助成工事当時の状況についてのヒアリング

調査者：関和明(当公益社团 理事・関東学院大学名誉教授)

小沢朗(元・横浜市職員)

菅孝能((株)山手総合計画研究所会長)

・小屋裏及び床下調査

調査者：遠藤靖仁((株)トージ建築)

・移築保全に関する技術的助言

調査者：水沼淑子(当公益社团理事・関東学院大学名誉教授)

c. 新港 9 街区(中区)

国の合同調査開発時に発掘された埋蔵文化財の残し方・活かし方の意見聴取

調査者：青木祐介(横浜都市発展記念館副館長)

d. 旧円通寺客殿（金沢区）

復元工事に関する技術的助言(基礎形状の変更、部材保全方法、復元工程等)、部材状況の確認、基礎石の状況確認、建方の現地確認及び技術的助言、茅葺作業前の現地確認及び技術的助言

調査者：大野敏(当公益社团理事・横浜国立大学大学院教授)

e. 赤レンガ倉庫(中区)

投光機器交換に係る技術的助言

調査者：久保隆文((株)マントル)

f. 山手 133 番館(中区)

ブラフ積みの保全活用について意見聴取

調査者：真田純子(東京工業大学准教授)

g. 旧市原重治郎邸(神奈川区)

門扉交換の現地確認及び技術的助言

調査者：内田青蔵(当公益社团社員・神奈川大学教授)

h. 東横線跡地(中区)

高架橋の設計者に関する調査及び高架橋の一部を保存活用することに関する技術的助言

調査者：小野田滋(公益財団法人鉄道総合技術研究所情報管理担当部長)

② 登録又は認定歴史的建造物の候補である建造物等の調査

a. 旧斎藤英輔家(鶴見区、古民家)

現地調査及び所見作成

調査者：大野敏(当公益社団理事・横浜国立大学大学院教授)

b. 長者橋(中区、土木産業遺構)

所見作成

調査者：中藤誠二(当公益社団社員・関東学院大学教授)

c. 山手 133 番館(中区、西洋館)

現地調査及び所見作成

調査者：関和明(当公益社団理事・関東学院大学名誉教授)

d. 野毛の吊り橋(西区、土木産業遺構)

所見作成

調査者：青木祐介(横浜都市発展記念館副館長)

e. 横浜銀行協会(中区、近代建築)

所見作成

調査者：吉田鋼市(当公益社団副会長・横浜国立大学名誉教授)

③ 認定歴史的建造物に関する保全活用計画案の策定又は変更案の作成

・山手 133 番館(中区、西洋館)

保全活用計画案の作成

調査者：関和明(当公社団理事・関東学院大学名誉教授)

④ 歴史的建造物に関する制度等の検討

歴史的建造物の保存活用に向けて、新たな制度や仕組みを作っていくにあたり、横浜市文化財保存活用地域計画作成と、歴史的建造物台帳登録調査に関してのヒアリングを、専門家及び学識経験者に行った。

＜受託調査＞ 歴史的建造物台帳登録調査[横浜市受託事業]

「歴史を生かしたまちづくり」を推進するにあたり、昭和 62 年から市内の歴史的建造物等の現況を把握するために台帳登録調査を実施し、その後見直し調査等を行ってきたが、令和 2 年度では、既存の台帳に掲載されている全 18 区の建造物を GIS データ及び航空写真を用いて存否確認を行い、特に中区・西区・磯子区・金沢区については、現地に赴いて行った。併せて、GIS データを活用した新規物件の抽出手法の検討として、戦前の建造物を中心に、磯子区と金沢区の一部地区でケーススタディを行った。

また、戦後建造物についても、情報整理を行うとともに、抽出手法の検討を行った。

(イ)歴史を生かしたまちづくり相談室の実施

歴史を生かしたまちづくり推進事業を円滑に進めるために、より広く市民等から関連の情報を集める相談室を開設している。

令和2年度は新規相談1件、前年度からの継続1件であった。

① 斎藤家住宅の保存活用（埼玉県深谷市）※令和2年度新規

利根川舟運の拠点として繁栄した中ノ瀬地区の名主として活躍した斎藤安雄氏の館内の別邸の保存活用に関してシーラ・クリフさん（十文字学園大学教授）と藤井美登利さん（川越着物の会・シルクロード・ネットワーク協議会会員）から相談があり、現在のご当主福田氏（十文字学園大学教授）を訪ね、併せて別邸の現況を調査した。

別邸は、明治期の豪壮な木造2階建。内部は、当時の状態が良く保たれていた。1階は住居。2階は、賓客用のお部屋が3間あり、いずれも品格溢れる数寄屋造り。営繕を担当している大工さんによると京都から職人を招いた造作されたとのこと。この現存する別邸と敷地500坪を寄贈したいとの申し出だったが、急遽、所有者の気持ちが変わり売却となり、残念ながら保存には至らなかった。

訪問日：令和3年3月18日(木)

訪問者：中村 武(NPO法人RAC副理事長)、シーラ・クリフ(十文字学園大学教授)、藤井美登利(川越着物の会)

担当：米山淳一(当公益社団常務理事)

② 西教寺（南区）※令和元年度からの継続

昭和7年建造の鉄筋コンクリート造りである西教寺本堂は、住職や専属の設計業者から横浜市認定歴史的建造物または横浜市指定有形文化財への希望があり、当公益社団では令和元年度に建物の現況調査や所有者へのヒアリング調査を行ったところであるが、令和2年度は、同調査に基づいて所見を作成した。

所見作成：大野敏（当公益社団理事・横浜国立大学大学院教授）

堀勇良（当公益社団理事・建築史家）

(ウ)俣野別邸庭園内歴史的建造物の助言・指導業務

【公益財団法人横浜市緑の協会受託事業】

平成29年4月から公開された「俣野別邸」（横浜市戸塚区）の管理運営に関しての助言や同邸園の職員研修セミナーをはじめ、同協会が管理する山手西洋館等の職員研修セミナー、市民向け歴史講座等を行った。

① 職員向け研修セミナー、市民向け歴史講座

a. 令和2年10月15日(木) 14:00～15:00

俣野別邸職員研修セミナー

講師：米山淳一（当公益社団 常務理事）

演題：「開港都市の文化遺産（1）函館、神戸、長崎」

b. 令和2年11月5日(木) 14:00～15:00

山手西洋館等職員研修セミナー

講師：水沼淑子（当公益社団理事・関東学院大学名誉教授）
演題：「日本における西洋館の導入と西洋館のみかた」

c. 令和2年11月12日（木）14:00～15:00

山手西洋館等職員研修セミナー

講師：安川千秋

（写真家、日本写真協会会員、日本建築写真家協会会員）

演題：「みなと横浜のうつろい～その歴史的景観の魅力～」

d. 令和2年11月19日（木）14:00～15:00

俣野別邸職員研修セミナー

講師：米山淳一（当公益社団常務理事）

演題：「開港都市の文化遺産（2）新潟、横浜」

e. 令和2年11月21日（日）11:00～12:00

市民向け歴史講座（会場：馬場花木園）

講師：熊谷秋雄（有限会社熊谷産業代表取締役）

演題：「茅葺屋根から自然環境を考える」

f. 令和2年12月7日（月）14:00～15:00

野島公園旧伊藤博文金沢別邸職員研修セミナー

講師：水沼淑子（当公益社団理事・関東学院大学名誉教授）

演題：「近代における金沢八景界隈の別荘事情」

g. 令和2年12月17日（木）14:00～15:00

俣野別邸庭園職員研修セミナー

講師：菅 孝能（（株）山手総合計画研究所会長）

演題：「地域の文化遺産 湘南の別荘建築 第1部（葉山・逗子・鎌倉）」

h. 令和3年2月18日（木）14:00～15:00

俣野別邸庭園職員研修セミナー

講師：菅 孝能（（株）山手総合計画研究所会長）

演題：「地域の文化遺産 湘南の別荘建築 第2部（大磯、小田原、箱根）」

i. 令和3年3月13日（土）14:00～15:00

市民向け歴史講座（会場：俣野別邸庭園）

講師：安川千秋

（写真家、日本写真協会会員、日本建築写真家協会会員）

演題：「みなと横浜のうつろい～その歴史的景観の魅力～」

② コンサートの企画協力・運営支援（会場：俣野別邸庭園）

コンサートは、令和2年11月に俣野別邸の主催で実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。

(2) 保護事業 <自主事業>

① 野毛都橋商店街ビル(横浜市中区)

平成 29 年 9 月に公益財団法人横浜市建築助成公社より寄贈を受けた「野毛都橋商店街ビル」の保全・活用を積極的に行った。日常管理を行っている横浜野毛商業協同組合と、管理等に関し情報交換を行うほか、特に映画・テレビドラマ等でのロケ撮影に協力するなど、広く一般に歴史文化的価値をアピールした。

また、超広角レンズを使用したカメラにより建物全体を撮影し、その写真を使って、都橋商店街ビルの絵葉書を作成した。

a. ロケ撮影を行った番組等(4 本)

- ・ d TV ドラマ(※映画のスピオフ作品、ネット配信ドラマ)
「Re:名もなき世界のエンドロール」
- ・ NHK BS4K/BS プレミアム (※映像ドキュメンタリー)
「一瞬の、永遠の、にっぽん／横浜マジックアワー」
- ・ NHK BS1 (※報道ドキュメンタリー)
「コロナ時代の人情酒場～横浜・野毛の 1 か月」
- ・ ミュージックビデオ(※ネット配信)
シンガー名: A S C A
曲名:「カルペディエム」

b. 野毛都橋商店街ビルの絵葉書

仕様: 5 枚(カラー)＋解説付き

作製部数: 1,000 セット

写真撮影: 田中光一(当公益社団事業課)

解説原稿: 米山淳一(当公益社団常務理事)

② 「建築家 J・H モーガンの自邸」(藤沢市)の再建・保存・活用

令和元年度より標記の事業を推進してきたが、令和 2 年度において、公益財団法人日本ナショナルトラストが所有する土地(焼けた主屋、温室、車庫、ポンプ小屋を含む)が譲渡され、併せて火災保険金の一部が贈与金として譲渡された。土地は令和 3 年 3 月 23 日付で所有権が移転し、直ちに登記を行い、同 3 月 31 日付で登記が完了した。また、贈与金は令和 3 年 3 月 31 日付けで入金となった。

これを受けて、NPO 法人旧モーガン邸を守る会、藤沢市と力を合わせて再建に向けて、さらに事業を推進して行くことになった。

(3) 普及啓発、人材育成事業

セミナー・シンポジウム等の開催及び刊行物の作成

歴史を生かしたまちづくりを推進するためには、市民、専門家、企業等の理解や参加が大切である。歴史的資産の保全・活用のための普及啓発を目的としたセミナー等の開催及び刊行物の作成を、以下のとおり行った。

<自主事業>

① シルクロード・ネットワーク・神戸市 2020

令和2年6月22日(土)～23日(日)の2日間、神戸市において開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和3年度に開催すべく延期した。

② 日本鉄道保存協会総会 2020 栗原市大会開催支援

令和2年10月8日(木)～9日(金)の2日間、宮城県栗原市において開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和3年度に開催すべく延期した。

③ 「コンサート in ヘリテージ～ピアノが案内する横浜の歴史とまち Vol. 9～」 (第15回横浜山手芸術祭参加企画)

令和3年1月から2月にかけて第15回横浜山手芸術祭の開催が計画されたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、同祭の開催が中止となった。

④ 「ヨコハマヘリテージ・セミナー2020～旧モーガン邸の新たな船出～」

日 時：令和2年11月28日(日) 午後1時30分～16時15分

場 所：藤沢市 商工会議所

共 催：NPO法人旧モーガン邸を守る会

後 援：藤沢市教育委員会

協 力：横浜市都市整備局

プログラム：

主旨説明

「再建に向けた事業の経緯と展開」

米山淳一（当公益社団常務理事）

報告

「旧モーガン邸再建計画調査報告」

水沼淑子（当公益社団理事・関東学院大学名誉教授）

「旧モーガン邸を守る会のこれまでとこれから」

徳重淳子（NPO法人旧モーガン邸を守る会 会長）

シンポジウム

「旧モーガン邸再建に向けて皆でエールを送ろう」

コーディネーター：

菅孝能（株式会社山手総合計画研究所会長）

パネリスト

渡辺剛治（NPO法人小田原まちづくり応援団）

鈴木美都子（NPO法人ひらつか八幡山の洋館を活かす会）

栗林恵美（公益財団法人横浜市緑の協会 俣野別邸庭園園長）

廣田邦夫（湘南藤沢文化ネットワーク会長）

総括

後藤治（工学院大学理事長）

参加者数：55名

⑤ 鉄道開業150周年記念委員会の設置等

新橋・横浜間に鉄道が開業して2022年で150年を迎えるにあたり、鉄道を生活文化の視点から記念事業を行うため、当公益社団と日本鉄道保存協会との協働で委員会を設置するとともに、第1回目の委員

会を開催した。

開催日 令和2年12月24日(木) 13:00～15:00
(横浜メディア・ビジネスセンター13階ホール)

委員会メンバー

菅建彦(公益財団法人交通協力会顧問)
岡田直(横浜都市発展記念館主任調査研究員)
北村圭一(元・横浜市港湾部技術担当部長)
斎藤大起(神奈川新聞文化部記者)
二階堂行宣(法政大学准教授)

オブザーバー

北河大次郎(文化庁文化資源活用課文化財調査官)

事務局

米山淳一(当公益社団常務理事)
河合桃子(当公益社団事業課)
田中光一(当公益社団事業課)

<受託事業>

歴史的建造物の保全活用に関する広報普及業務 [横浜市受託]

歴史的資産の保全・活用に関して市民、専門家、企業等からの理解や協力、支援を目指して、「歴史を生かしたまちづくりセミナー」の開催、「歴史を生かしたまちづくり横濱新聞」の編集・印刷、歴史を生かしたまちづくり広報紙の改訂検討を行った。

①「歴史を生かしたまちづくりセミナー Vol. 4 3 旧横浜市庁舎の歴史・文化的価値を探る!」

日 時：令和2年12月5日(土) 午後2時～午後4時30分
場 所：横浜市役所1階 市民協働推進センタースペースA・B
プログラム：

講演1「旧横浜市庁舎の設計者・村野藤吾が求めたもの」

松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)

講演2「旧横浜市庁舎の建築概要」

吉田鋼市(当公益社団副会長・横浜国立大学名誉教授)

話題提供「公共建築の姿を具現化した横浜市庁舎へのレクイエム」

内田青蔵(当公益社団社員・神奈川大学教授)

トークセッション

松隈 洋、吉田鋼市、内田青蔵(コーディネーター)

司 会 米山淳一(当公益社団常務理事)

主催 公益社団法人横浜歴史資産調査会、横浜市、公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会(JIA 神奈川)

参加者数：32名(会場)＋約80名(WEB視聴者)

②「歴史を生かしたまちづくり 横濱新聞」第36号の編集・印刷

印刷部数は3,500部。市民、横浜市関係機関(市民情報センター、各区広報相談部署、各図書館、山手西洋館等)、当公益社団会員等への配布を行った。

発行日：令和 2 年 12 月 25 日

③ 歴史を生かしたまちづくり広報紙の改訂検討

『都市の記憶 横浜の主要歴史的建造物』（改訂第 6 版、平成 26 年 4 月発行）の改訂に向けて、修正が必要な箇所の洗い出し、掲載内容に関する専門家へのヒアリング等を行った。

2. 会員事業

当公益団体の事業の益々の発展を目的に、広く継続的な支援を得るために賛助会員、団体会員、ヨコハマヘリテイジ・サポートクラブ個人会員の募集を行った。

また、個人会員、賛助会員、団体会員等を対象とした会報誌「ヨコハマヘリテイジスタイル」を年に 4 回（季刊）発行するとともに、ホームページを通じて活動を広く発信した。

①ヨコハマヘリテイジスタイル 2020 年夏号（令和 2 年 7 月 31 日発行）

1 ページ：「ごあいさつ」 宮村忠（当公益団体 会長）

2～3 ページ：「公益団体法人横浜歴史資産調査会 今年の仕事」
米山淳一（当公益団体 常務理事）

4 ページ：ヨコハマヘリテイジの活動報告

②ヨコハマヘリテイジスタイル 2020 年秋号（令和 2 年 11 月 10 日発行）

1 ページ：「旧モーガン邸の再建に踏み出す」
宮村忠（当公益団体会長）

2 ページ：「Jay. H. モーガンとその自邸について」
水沼淑子（当公益団体理事・関東学院大学名誉教授）

3 ページ：「旧モーガン邸を守る会の結成とこれまでの活動」
佐藤里紗（旧モーガン邸を守る会）

4 ページ：行事等開催告知など

③ヨコハマヘリテイジスタイル 2020 年早春号（令和 2 年 2 月 1 日発行）

1 ページ：「開設 7 年目を迎える 歴史を生かしたまちづくり相談室」
宮村忠（当公益団体会長）

2～3 ページ：「歴史的建造物・山手 133 番館について」
関和明（当公益団体理事・関東学院大学名誉教授）

3 ページ：「(株)三陽物産が社会貢献事業として山手 133 番館を取得」 株式会社三陽物産 代表取締役 山本博士
聞き手：米山淳一（当公益団体常務理事）

4 ページ：ヨコハマヘリテイジの活動報告、ネットワーク事業の近況

④ヨコハマヘリテイジスタイル 2020 春号（令和 3 年 3 月 31 日発行）

1 ページ：「旧湘南電鉄瀬戸変電所保存・活用事業のその後」
宮村忠（当公益団体 会長）

2～3 ページ：「発電所美術館のダイナミズム（富山県入善町）」
「活用を待つレンガの変電所 旧大阪電気鉄道富雄発電所」 米山淳一（当公益団体常務理事）

- 4 ページ：・ヨコハマヘリテイジの活動報告、
・「新橋-横浜 鉄道開業 150 周年に向けて」第 1 回
横浜開港資料館・横浜都市発展記念館副館長 青木祐介

3. 周年特別事業

横浜歴史資産調査会設置 30 周年・法人化 10 周年記念式典・交流会の開催

令和元年度に開催を予定していた標記行事については、新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和 2 年度に開催を延期し、令和 3 年 3 月 19 日（金）にホテルニューグランドにて開催を計画したが、令和 3 年 1 月 7 日に発令された緊急事態宣言等を踏まえ、令和 3 年度に開催すべく再度延期した。

4. 書籍販売事業（収益事業）

令和 2 年度においては、当公益社団での直売及び委託販売先 12 か所において、以下の刊行物を販売した。

- ・「都市の記憶—横浜の主要歴史的建造物（第 6 版）」
販売冊数：86 冊
- ・「ヨコハマヘリテイジ・ブックレット 2～ 港・鉄道・横浜」
販売冊数：21 冊
- ・「都市の記憶—横浜の土木遺産」（昭和 63 年発行・平成元年第 2 刷）
販売冊数：4 冊

以 上